

【 第30回熊本大学定例学長記者懇談会 】

日 時：令和6年1月10日（水） 14：00～15：00（予定）

場 所：本部棟1階 大会議室

本学出席者：熊本大学長

小川 久雄

理事（研究・グローバル戦略・キャンパスミュージアム担当）大谷 順

理事（人事・労務担当）

水元 豊文

理事（広報・ブランディング・行政連携担当）

宮尾 千加子

内 容：

1. 大学等連携推進法人の認定について（資料1）
 - ①一般社団法人 熊本地域大学ネットワーク機構について
 - ②新学部「情報融合学環」における大学等連携推進法人制度を活用した教育の紹介
2. DXの推進に向けた取り組みについて（資料2）
 - ①「RPA 推進プロジェクトチームにおける業務効率化への取り組み」
 - ②「教育現場におけるDX 推進取組み ～保護者等 Web の稼働について～」
3. その他

第30回熊本大学定例学長記者懇談会

大学等連携推進法人の認定について

一般社団法人熊本地域大学ネットワーク機構



地域活性化
人材育成事業
Superminent Program SPARC
for Activating Regional Collaboration



熊本地域大学ネットワーク機構とは

熊本大学・熊本県立大学・東海大学は、熊本県内に活動拠点を置く高等教育機関がこれまでの連携によって推進してきた熊本県地域における高等教育の機能強化を更に発展させることを通じ、多様化する学修者のニーズや社会からの人材育成等に係る要請に応えるとともに、熊本地域の発展に貢献することを目的として、令和5年4月3日に「一般社団法人熊本地域大学ネットワーク機構」を設立しました。



5 文科高第 1 2 3 1 号

一般社団法人 熊本地域大学ネットワーク機構

令和5年9月27日付けで申請のあったことについて、大学等連携推進法人の認定等に関する規程（令和3年文部科学省告示第17号）に基づき認定します。

令和5年11月30日

文部科学大臣
盛山正仁

文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

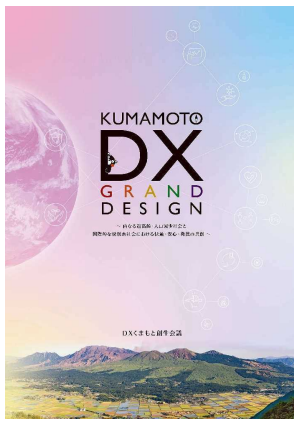
会見・報道・お知らせ | 政策・審議会

トップ > 教育 > 大学・大学院、専門教育 > 大学等連携推進法人

● 大学等連携推進法人

大学等連携推進法人一覧

- 一般社団法人大学アライアンスやまなし(※外部サイトへリンク) [☞](#)
- 一般社団法人四国地域大学ネットワーク機構(※外部サイトへリンク) [☞](#)
- 一般社団法人学修評価・教育開発協議会(※外部サイトへリンク) [☞](#)
- 一般社団法人やまぐち共創大学コンソーシアム(※外部サイトへリンク) [☞](#)
- 一般社団法人熊本地域大学ネットワーク機構(※外部サイトへリンク) [☞](#)
- 一般社団法人信州アライアンス(※外部サイトへリンク) [☞](#)



7-1. 人を惹きつける大学等の教育環境の整備
大学等における先進的な教育の実施

7-1-1.

次代を担う人材に求められる教育環境の提供

- 大学教育などにおいて、大学間連携や地域連携を推進し、地域社会で活躍できる以下のような次代を担う人材を育成・輩出する。
 - ・データサイエンティスト、データエンジニア、アーキテクトなどのデジタル人材
 - ・地域経済の発展、地域社会の課題解決などを企画・実行できる起業家などのイノベーター型人材
- 義務教育、高等学校教育などの各段階においてもICT教育環境やデジタルコンテンツを整備するとともに、デジタル人材を育成する。

7-2. 新しい技術や新しい価値観など新たな潮流に対応した仕事環境の整備
どこでも誰でも働ける環境づくり、リカレント教育等の充実

7-2-1.

都市部の利便性、豊かな自然環境の両方を楽しめる仕事環境の整備

- 産学官のテレワークを推進する。
- 副業・兼業、フリーランスなどの多様な働き方ができる環境を整備する。

7-2-2.

リカレント教育等の充実

- 事業者や雇員のデジタルリテラシーを向上させる。
- 地域社会の担い手がITスキルなど自身の仕事に関連した専門のスキルや知識を学べる教育環境を提供する。



令和4年10月13日開催
「地域活性化人材育成事業～SPARC～」
合同記者会見



令和5年3月28日開催
「地域活性化人材育成事業～SPARC～」
キックオフシンポジウム

くまもとの未来を拓くグローバルDX人材育成プロジェクト

—地域社会と国公私3大学の連携による“くまもと型文理融合DX教育”の構築を目指して—

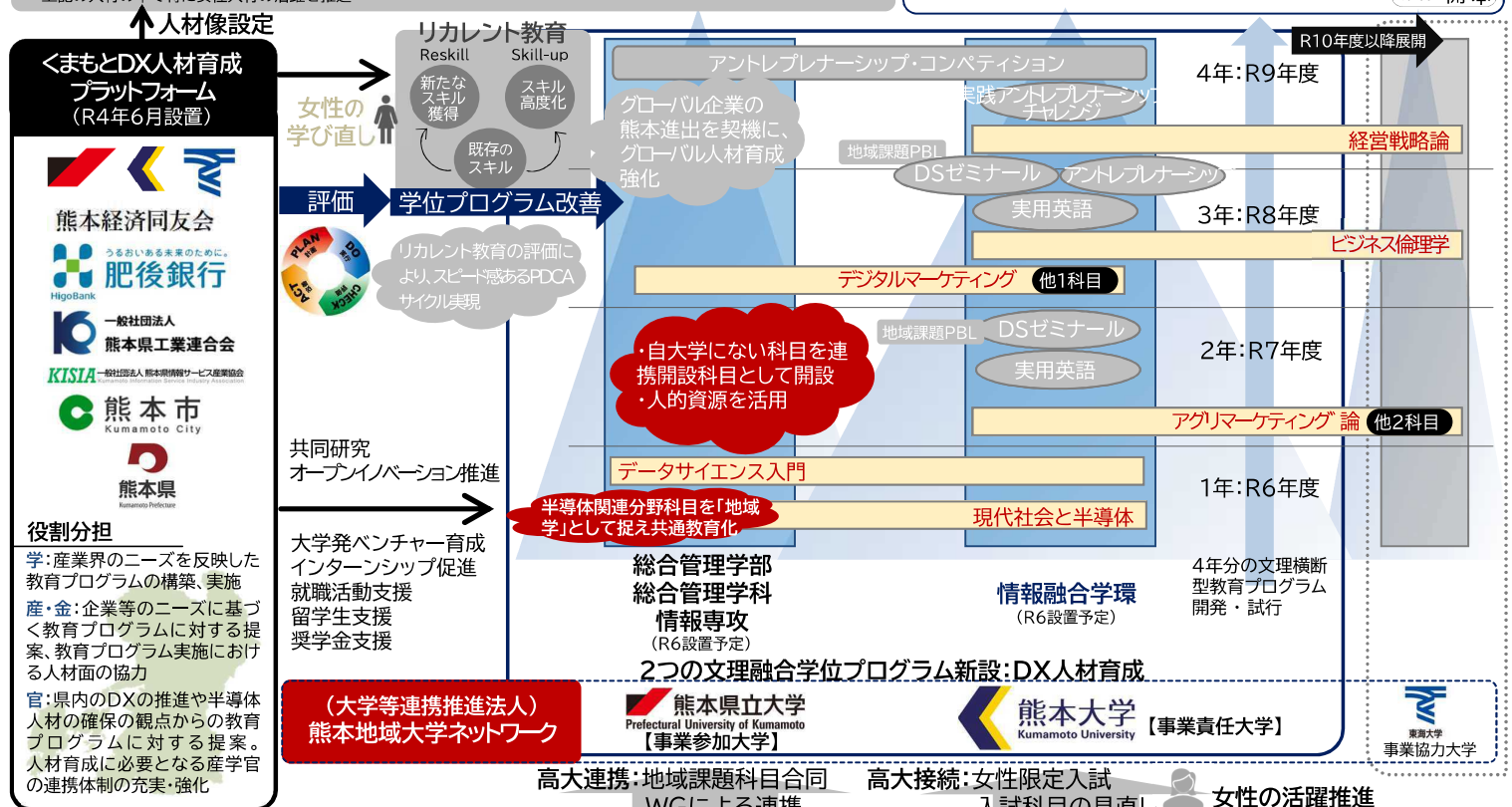
SPARC全体像

熊本地域で求められる人材像、身に付けるべき資質・能力等

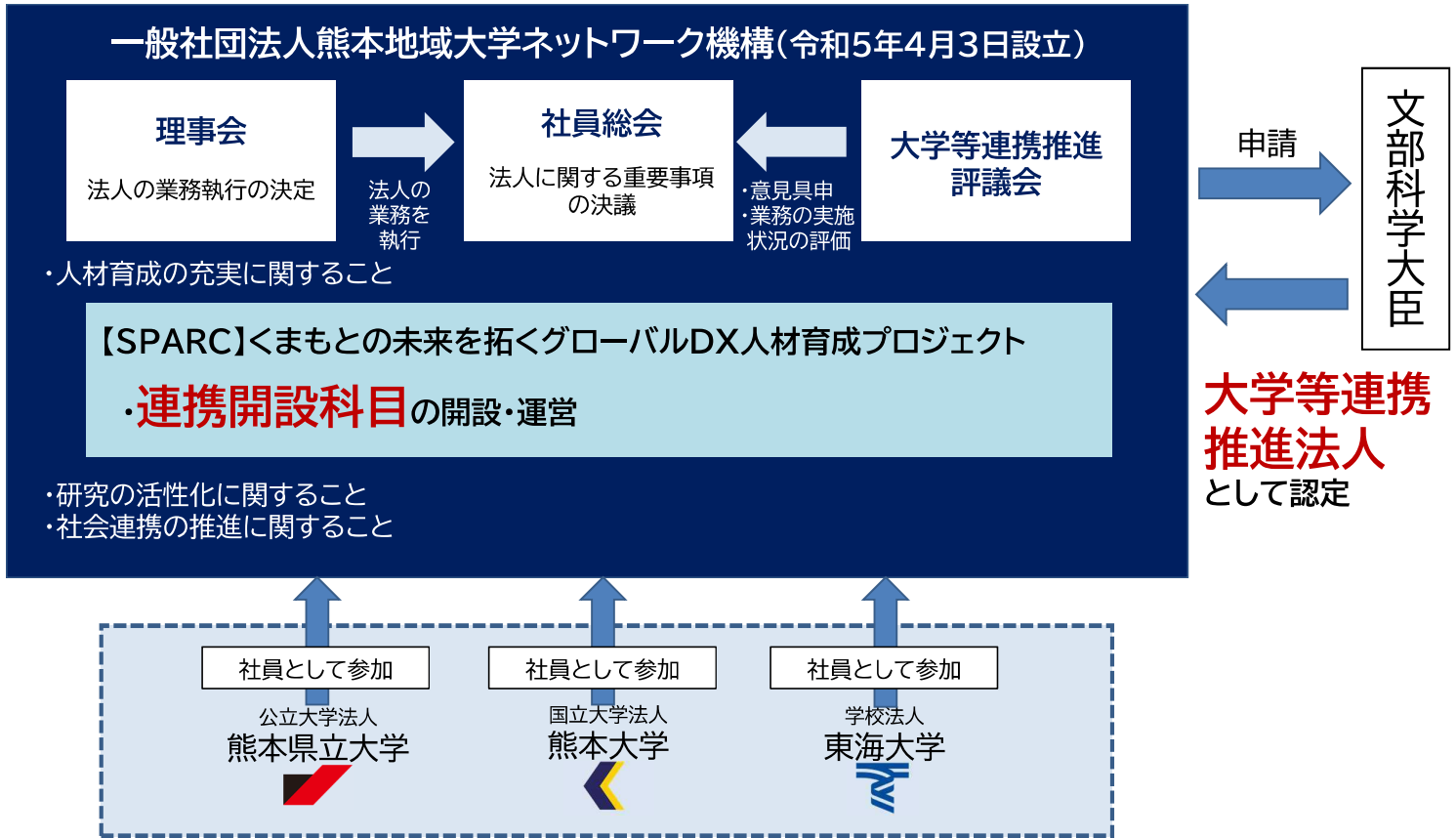
- ・地域課題を把握するための知識と、課題解決に向け既存の枠組みを超えることに挑戦することの意味を理解し、自らが率先して挑戦できる人材
- ・地域の産業構造の特性についての理解と、グローバル企業展開する半導体関連産業についての基本的知識を備えた人材
- ・一定水準の英語力と英語等外国語でのコミュニケーション能力を有する人材
- ・Society5.0に対応するために必要不可欠なデータサイエンスを含めた情報通信・AIに関連する基礎的な知識とデータを活用するための基本的な技能を備えた人材
- ・上記の人材の中で特に女性人材の活躍を推進

目標

- 地元就職率UP 51%→70%
- 地域が求める人材UP 42%→90%
- グローバルコミュニケーション能力UP1.8%→10%
- 数理・データサイエンス・AIスキルUP 0→2大学
- 女性の活躍推進 23%→45%



一般社団法人熊本地域大学ネットワーク機構



5

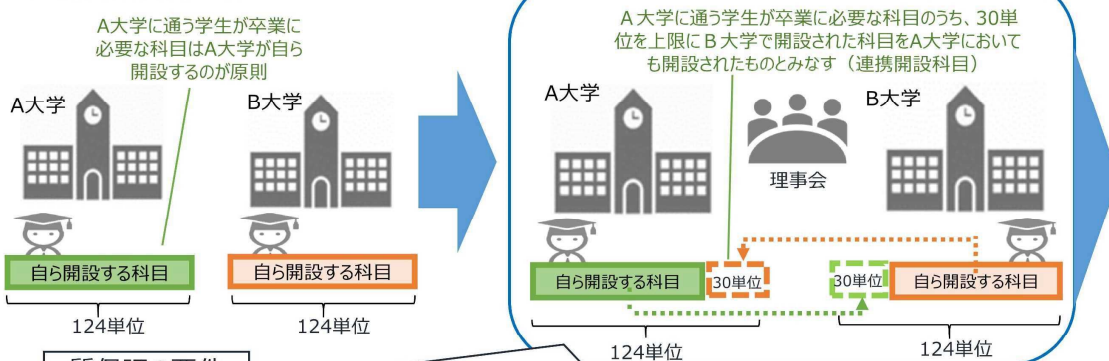
大学等連携推進法人・複数大学設置法人の下で新たに可能となる授業科目の連携開設について

文部科学省ホームページ掲載資料
https://www.mext.go.jp/content/20210226-koutou01-000011127_003.pdf

概要

- 各大学で開設される授業科目について、大学設置基準第19条において、「**大学は、…教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。**」とされている（**自ら開設の原則**）。
- 社会ニーズ等に機動的に対応していくためには、各大学が強みを持ち寄り、資源を有効活用しつつ、教育研究を行う在り方へ変化することが必要
- 質の保証にも留意**しつつ、継続的に緊密な連携が期待される大学等連携推進法人及び要件を満たした複数大学設置法人の下で、**他の大学が当該大学と連携して開設した授業科目（連携開設科目）を当該大学においても自ら開設したものとみなす**特別措置を設ける。

<連携開設科目のイメージ※学士課程の場合>



<得られる成果>

- 各大学の強みや特色を生かして、
 ・充実した教育プログラムの提供
 ・弱点分野の相互補完
 ・**地域が求める人材等**を連携して育成
 - 各大学の教育研究資源を有効活用することで、
 ・**きめ細かな指導や少人数教育**の実施
- ⇒例えば、地域の大学が連携して**数理・データサイエンス・AI教育**を実施することや、**教養教育を充実**させることが可能に。

質保証の要件

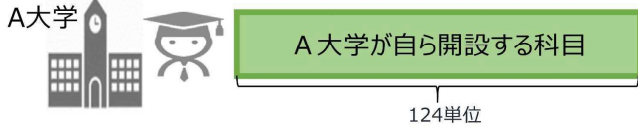
- 大学等連携推進法人が**教学上の連携を図る意義・目標、実施計画等を共有、明確化するための「大学等連携推進方針」**を策定し、**文部科学大臣へ届出**
- 参加大学間で**連携開設科目を適切に運営するための教学管理体制を構築**（授業内容や授業計画、成績評価の基準等を協議、調整する場）
- 連携開設科目で**修得できる単位数の上限を設定**（学士課程：30単位を上限）
- 連携開設科目の科目名、授業計画、成績評価の基準等の**情報公表を義務付け**等

6

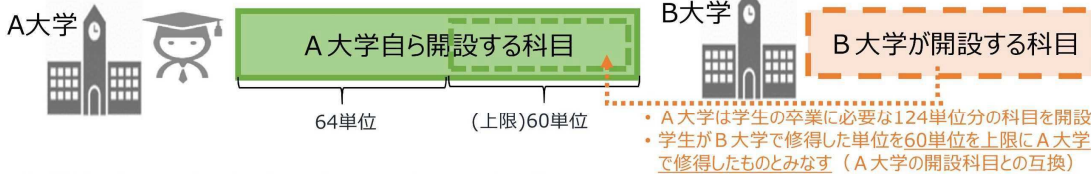
大学間での教育課程上の連携

- 学生が卒業するために必要となる単位数について、原則として、当該学生が所属する大学が自ら開設することとされている（大学設置基準第19条第1項）。
- 他方で、大学間での教育課程上の連携を実現するため、いわゆる単位互換、連携開設科目、共同教育課程により他の大学が提供する教育により単位修得が可能となっている。
- 特に連携開設科目や共同教育課程については、制度的に担保された大学間での連携に基づき、所属する学生が必要とする授業科目を自ら開設する原則について特例措置を設けている。

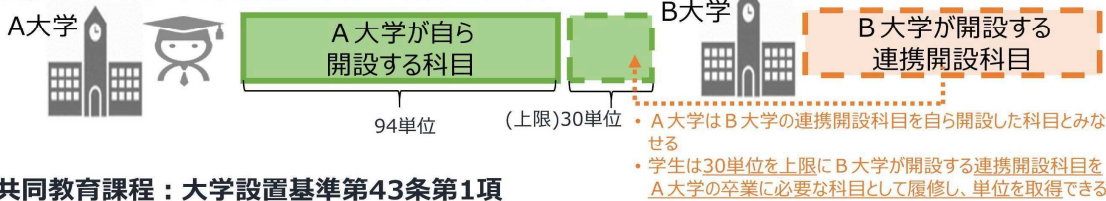
①原則：大学設置基準第19条第1項 ※学士課程の場合（以下同様）



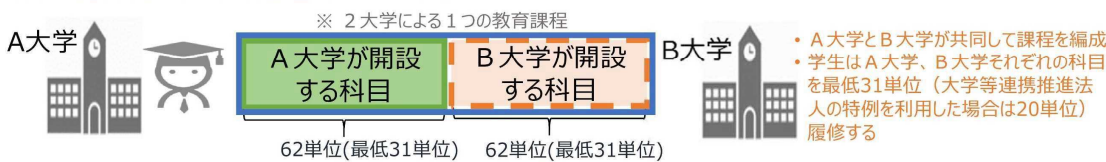
②いわゆる単位互換：大学設置基準第28条第1項等



③連携開設科目：大学設置基準第19条の2第1項

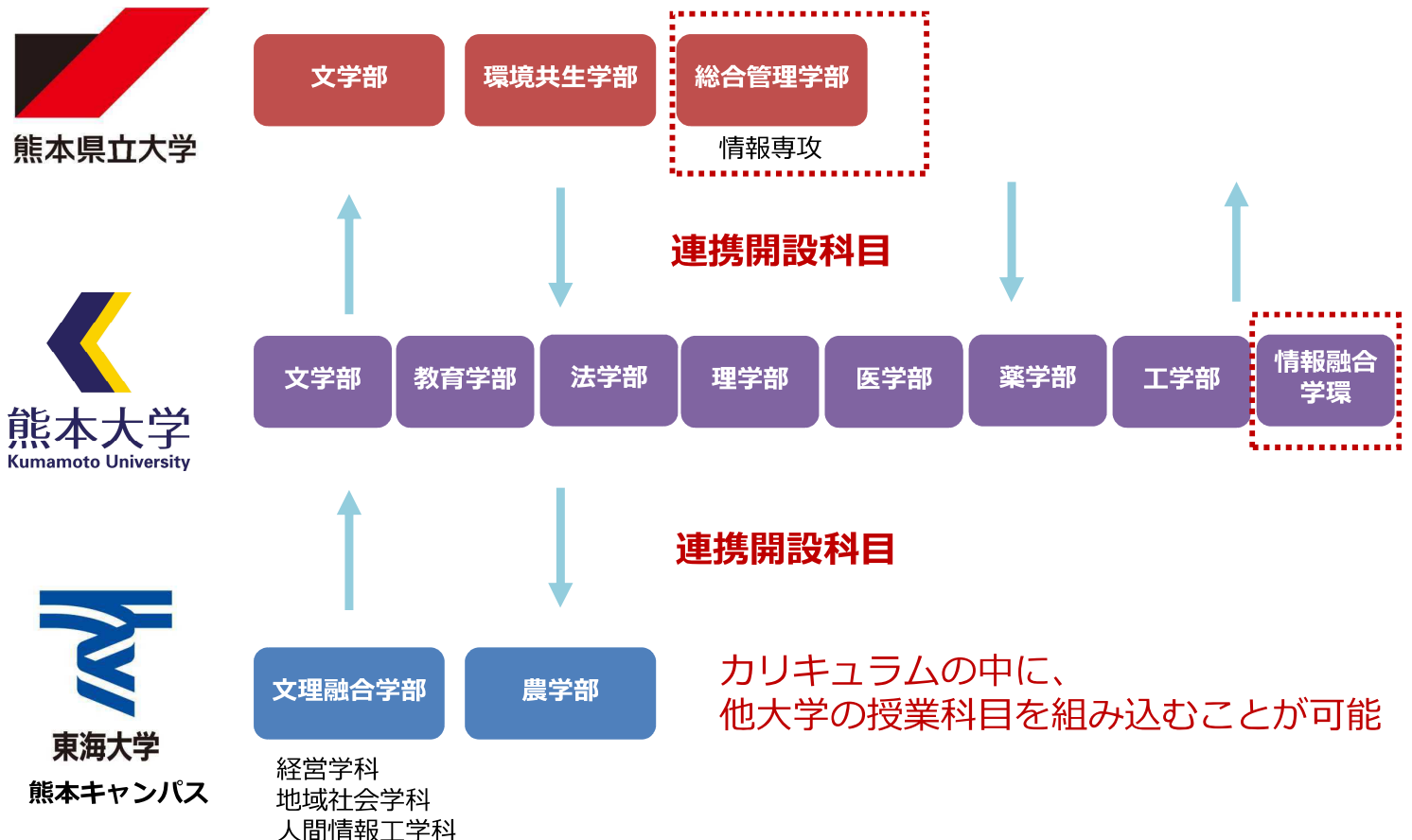


④共同教育課程：大学設置基準第43条第1項



●連携に関する要件等

協定の締結	協議の場	設置者による方針策定
○	△	△
前提として大学間で任意に策定することが望まれる	任意で実施可能	任意で策定可能
○	◎	◎
前提として大学間で任意に策定することが望まれる	大学間で設置基準上設けることが必要	設置者は設置基準上策定が必要
○	◎	△※
前提として大学間で任意に策定することが望まれる	大学間で設置基準上設けることが必要	任意で策定可能 ※大学等連携推進法人制度の特例を利用する場合は策定が必要





熊本県立大学

総合管理学部
情報専攻

情報専攻



情報融合学環



熊本大学
Kumamoto University



文理融合学部

農学部



東海大学

経営学科
地域社会学科
人間情報工学科

データサイエンス入門

アグリマーケティング論

アグリビジネス論

グローバル企業家論

ビジネス倫理学

経営戦略論



半導体関連科目
デジタルマーケティング等

第30回熊本大学定例学長記者懇談会

情報融合学環

～大学等連携推進法人制度等
を活用した教育の紹介～

熊本大学情報融合学環長候補者
城本 啓介

工学部 機械数理工学科 教授
大学院自然科学教育部 副教育部長
大学院先端科学研究部 副研究部長
半導体・デジタル研究教育機構 機構長特別補佐

可能性は未知数
DATA SCIENCE
KUMAMOTO UNIVERSITY
令和6年(2024)4月創設
文理融合で学ぶ
情報融合学環 新学部
School of Informatics 入学定員:60名 取得学位:学士(情報学)
DS総合コース Data Science General course
DS半導体コース Data Science Semiconductor course
令和6(2024)年度
入学者選抜日程 出願期間 試験日 合格者発表
学校推薦型選抜II 1/15(月)～19(金) 2/3(土) 2/8(木)
一般選抜[前期] 1/22(月)～2/2(金) 2/25(日) 3/8(金)
私費外国人留学生選抜
女子特選入学 学校推薦型選抜II 募集人員 8名
情報融合学環の情報はこちら！
熊本大学 Kumamoto University
国立大学法人熊本大学 情報融合学環教務担当
〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目39-1 TEL:096-342-2257

情報融合学環カリキュラムマップ

両コース共通：必修 両コース共通：選択必修 両コース共通：選択 半導体コース：必修 総合コース：必修 半導体コース：選択 総合コース：選択必修(半導体コース：選択)

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
DS総合			評価・調査法 学習論ベーシック 経済学入門 アグリマーケティング論 教育学ベーシック アグリビジネス論	DSゼミナールIII DSゼミナールIV	デジタルマーケティング 行政学II 計量経済学			
学環基礎科目	英語A-1, A-2 ICTリテラシー 線形代数I 微分積分I DS基礎数学演習I 集合と論理 DS倫理	英語B-1, B2 DSリテラシー 線形代数II 微分積分II DS基礎数学演習II 確率・統計 DS入門 プレゼンテーション実習 物理化学基礎	実用英語I, II 離散数学I 統計学I 統計学演習I データ分析I プログラミング演習I アルゴリズム論I コンピュータシステム論 情報理論 DSゼミナールI	実用英語III, IV 統計学II 統計学演習II データ分析II プログラミング演習II アルゴリズム論II グローバル企業家論 DSゼミナールII	実用英語II, III 人工知能応用 人工知能演習 人工知能理論 最適化理論 情報セキュリティ ビジネス倫理学	データベースII メディア情報処理 生体情報システム 卒業研究 経営戦略論 実践アントレプレナーシップチャレンジ 知的財産権		
DS半導体			制御工学I 半導体基礎 論理回路演習 電気計測 アナログ電子回路	論理回路 論理回路演習 電気回路I 電気回路演習I 電気計測 電磁気学概論	電気回路II 制御工学II 安全工学 半導体実験I	電気電子材料 半導体製造技術 先導半導体工学 集積システム設計論 EDA概論 半導体実験II		

熊本県立大学提供科目 東海大学提供科目 工学部科目 法学部科目 医学部科目
大学等連携推進法人 学部等連携課程

情報融合学環
パンフレット
より抜粋

Message

企業等からのメッセージ



ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社

データサイエンス × 半導体製造

私たちは、ソニーグループの半導体デバイスメーカーです。世界最先端のものづくりを行っています。私たちが手掛ける半導体製品には、ロジックメモリ、アナログなど様々な種類がありさまざまなスマートデバイスやデジタルカメラ、産業機器、自動車など幅広い領域で使用されているイメージセンサーは、圧倒的な技術力で世界をリードし、世界でトップのシェアを占めています。

半導体の製造工程は、厳しい品質管理のもとに成り立っています。例えば、製品の歩留まりや製造装置の生産性向上のために、様々なパラメータ/欠陥等を検出することや、装置異常を早期に発見することが重要となります。また、機械化に伴い、製造プロセスが複雑化し、性能を左右する装置パラメータが増え続けており、プロセス構築の効率化も必要となっています。

こうした製品品質や装置故障、製造プロセスの効率化に対して、AI技術を駆使した統計解析・機械学習などの数理計算手法を用いて、IoTで収集したあらゆるビッグデータから要因の分析、および予測や制御、分類のモデル構築を行うデータサイエンティストが必要です。合わせて、解析ツールの作成や構築されたモデルを情報システムに実装する人材も求められています。



データサイエンスとは

Data Science

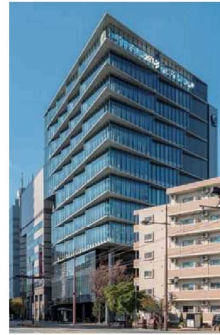
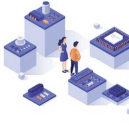
データサイエンス(DS)とは、膨大なデータを数学、統計学、機械学習や情報処理技術などを活用して分析し、有益な価値を見いだす学問分野を指します。身近な例であれば、ネット通販で現れるレコメンド機能です。膨大な消費者の情報から消費者の行動を分析し、「Aを買った人は、Bを買う傾向にある」といった行動をデータから具体化することができます。このように、様々なデータから科学やビジネスなどの社会に役立つ価値を引き出します。



半導体とは

Semiconductor

半導体はスマートフォンやパソコン等の通信機器、生活家電、自動車、医療機器から電気や公共交通機関などの社会インフラに至るまで、私たちの生活のありとあらゆるところに使われています。物質には電流を通す導体と、通さない絶縁体がありますが、半導体はその中間の性質をもちます。半導体を用いた集積回路は、電子機器や装置の頭脳部分として中心的役割を果たしています。



株式会社九州フィナンシャルグループ

データサイエンス × 地域価値共創

九州フィナンシャルグループは地方銀行2行(肥後銀行・鹿児島銀行)、証券会社、IT企業、カード会社、リース会社等を傘下を持つ金融持株会社です。

近年、社会のデジタル化が急速に加速し、人々の日々の生活やライフスタイル、企業活動や働き方などに大きな変化を与えています。

そのような環境のもと、当社グループでは、デジタルテクノロジーによるお客様・地域向けの新たな体験・サービス提供を通じて、「地域価値共創グループへと進化」を目指し、各種取組みを実施しています。その中のひとつが、当社グループが保有する膨大な取引データをもとに、お客様の行動や将来を予測し、お客様への最適な提案につなげるといったマーケティング活動です。そのためには、有益なデータを集約し、企画立案やマーケティング等に活用できるプラットフォームの整備や統計的なデータを可視化するといったデータサイエンスの技術が不可欠です。



熊本県

データサイエンス × 熊本の発展



熊本県では、域課題を解決し、熊本県の発展につなげていくため、社会全体のデジタル化、DXの取組みを推進しています。令和4年度には、DXの取組みを産学行政が連携して進めていくための体制として「まもろDX推進コンソーシアム」を設立し、DX推進の醸成や理解促進、事例紹介、ビジネスマッチングなどの活動を行っています。

DX推進のためには、デジタル人材の育成も重要な課題の一つです。半導体産業を始め、様々な分野へ人材を輩出するため、企業や大学等と連携し、デジタル知識の習得のみならず、地域経済の発展、地域社会の課題解決など、自ら企画・実行できる人材の育成に取り組んでいます。取組みを通じて、熊本、日本の未来を支える人材が育つことを期待しています。



在日米国大使館 在福岡米国領事館

グローバルコミュニケーション

在日米国大使館、在福岡米国領事館では、情報・半導体人材育成の強化を目的とし、米国国務省のEnglish Language Specialistプログラムを活用して、「情報融合学環」の教育をサポートします。

熊本は、世界の半導体サプライチェーンの重要な拠点であり、熊本および九州地域は、将来にわたって半導体の開発および製造において主導的な役割を果たすべく確信しています。

これから「情報融合学環」で学ぶみなさん、世界のひととコミュニケーションをとるために、英語は不可欠です。英語によるコミュニケーション能力は、皆さんの視野や知識を広げてくれるでしょう。

ご存知のように、デジタルトランスフォーメーションや半導体開発には国際的なチーム、英語でのコミュニケーションが可能になれば、国籍や文化の違いや人々を効果的に意見交換することができます。

「情報融合学環」で学んで皆さんが、将来、日本の架け橋となるリーダーとなって、世界の課題解決のためインバリエーションを生み出してくれることを期待しています。

教職課程の認定と卒業後の進路

(1) 大学院進学

- 本学大学院自然科学教育部、社会文化科学教育部、生命系教育部等への進学を想定

(2) 取得可能な資格

- 中学校教諭一種免許状 (数学)
- 高等学校教諭一種免許状 (数学/情報) **令和5年12月4日 文部科学大臣による教職課程の認定**

(3) 将来の進路

● DS総合コース …社会の幅広いDX課題を解決し未来へと導く人材へ

- データサイエンティスト、研究者・技術者
- 金融機関、情報通信業 (IT企業)、製造業、流通・サービス、教育関連業
- 地方・国家公務員、学校教員

● DS半導体コース …半導体を含む製造DX課題に向き合いデジタル産業をけん引する人材へ

- データサイエンティスト、研究者・技術者
- 半導体関連企業をはじめとする製造業、情報通信業 (IT企業)、流通・サービス
- 地方・国家公務員、学校教員



RPA推進プロジェクトチームにおける業務効率化への取組

【熊本大学病院事務部】



令和6年1月10日
熊本大学定例学長記者懇談会

RPA推進プロジェクトチームにおける業務効率化への取組

<目次>

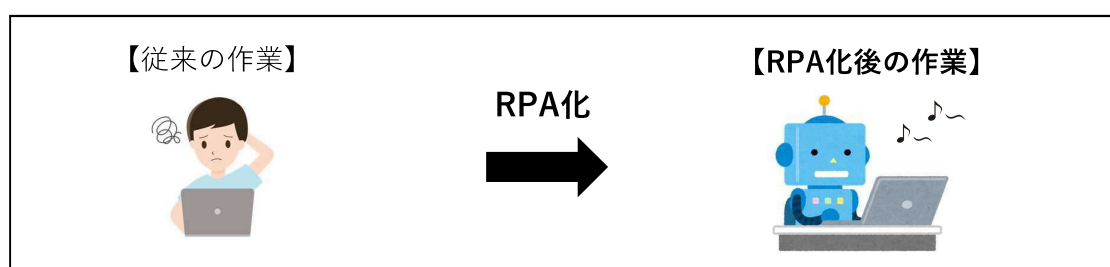
1	RPAとは？	1
2	RPA推進プロジェクトチーム	
(1)	設置経緯	2
(2)	組織構成	3
(3)	基本方針	4
(4)	活動概要	5
(5)	今後の展望と成果	7
3	令和5年度熊本大学業務改善表彰	8

1 RPA (Robotic Process Automation) とは？

< RPAとは？ >

「Robotic Process Automation (ロボティック・プロセス・オートメーション)」の略で、人の手によって行われるパソコン上の作業をソフトウェアに組み込まれたロボットに代行してもらう技術のことを指す。

人間が行う作業だと時間が掛かるうえに、疲労がたまりミスを起こすことも想定されるが、RPAだとロボットに作業を任せるため、ミスすることなく、短時間で作業を完了させることができる。



1

2 (1) RPA推進プロジェクトチームの設置経緯

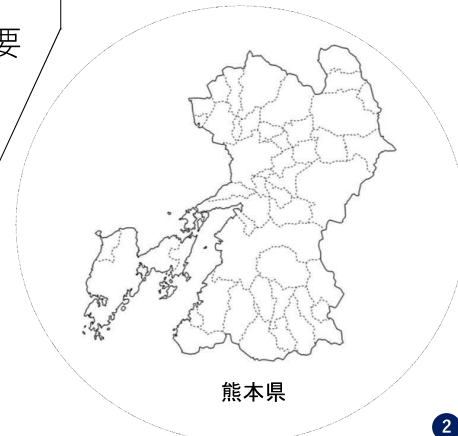
(1)設置経緯

熊本大学病院は、県内唯一の特定機能病院として、地域医療の最後の砦としての役割を担っていると同時に、熊本県地域医療構想及び第7次保険医療計画に基づき、病床機能の分化や連携の推進、医療従事者の養成等への対応を行っている。

そのサポートを担う事務職員の業務の効率化を図ることは重要な課題であり、その取り組みの一つとして、令和3年4月、病院事務部内にRPAによる業務効率化を検討する実行部隊としての「RPA推進プロジェクトチーム」を設置した。

○熊本県地域医療構想
平成29年3月 策定

○第7次熊本県保健医療計画
【計画期間】6年間
平成30(2018)年度から
令和 5(2023)年度まで

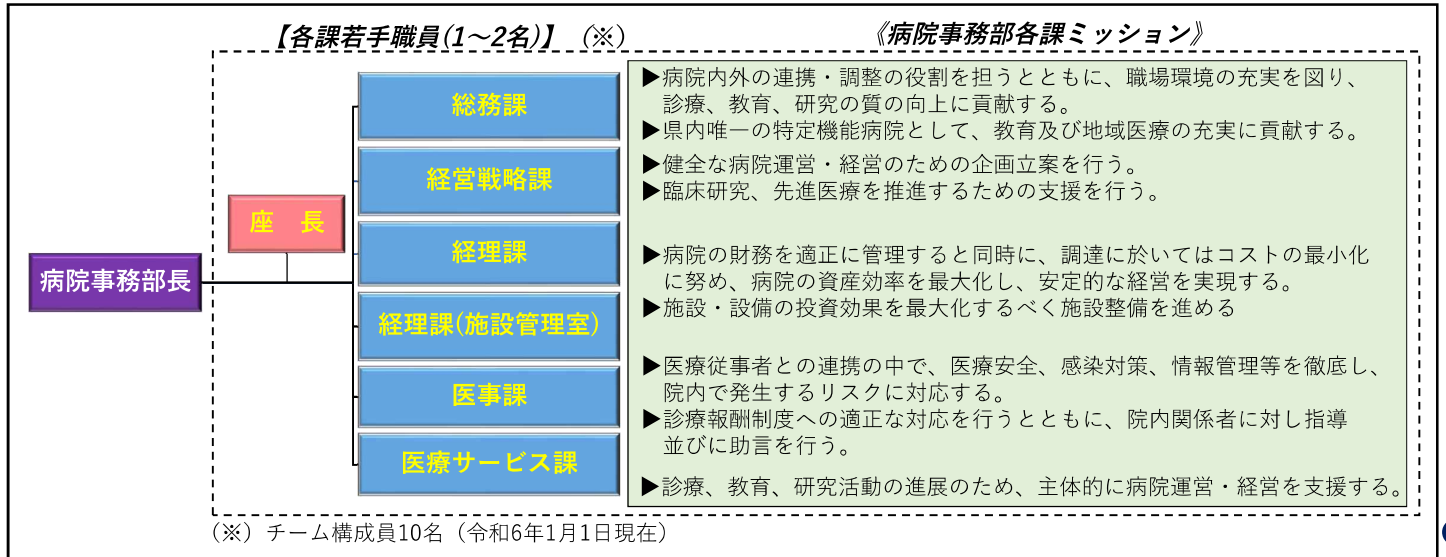


2

2 (2) RPA推進プロジェクトチームの組織構成

(2)組織構成

各課より推薦のあった若手職員（主任・係員：1～2名）を病院事務部長の下に座長が指揮し、構成員のスキルアップ等を図るとともに、各自のRPA化の取り組みをサポートする。



3

2 (3) RPA推進プロジェクトチームの基本方針

(3)基本方針

【基本方針】

各構成員がRPAを導入することで、業務効率化が見込まれる案件を洗い出し、可能なところからRPA化を進めていくことで、業務の効率化を目指す。但し、RPAを基本とするが、他のツールの活用等により業務効率化が図れる場合には、RPA化以外の手法の検討を行うことも可とする。定型作業を自動化し、より創造的な業務にシフト・チェンジを図る。

【基本ルール(SNC)】

- ◆ 手間暇かけずに出来ることから始める！ ⇒ 《Small start》 S
- ◆ ノルマは課さない！ ⇒ 《No pressure》 N
- ◆ 極力費用はかけない！ ⇒ 《Cost saving》 C



★ボトムアップでの自由な発想とSNCにより業務効率化への取組の好循環を創出



4

2 (4) RPA推進プロジェクトチームの活動概要

(4)活動概要

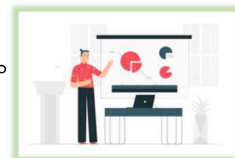
●チーム定例打合せ

- ・毎月2回定例開催日を設定し、各自の進捗状況の報告やRPAに関する情報提供等を行う。
《実績：R3年度-19回、R4年度-18回、R5年度-15回(R6.1.1現在)》



■チーム報告会

- 1年間の活動内容についての報告会を実施し病院事務部全体への情報共有を図る。
《実績：R3年度-R3.7.28, R4.2.22, R4年度-R5.2.14, R5年度-R6.2.22(予定)》



★スキルアップへの取り組み

- 書籍から知見を深める
- ウェブセミナー受講により事例を学ぶ
《受講実績》



- ・R3.12.10 医療機関におけるRPAを活用した3つの経営目標への提供可能性
- ・R4.6.23 事務スタッフが始める！自動化・デジタル化Webセミナー
- ・R4.10.7 SDCs①事例で学ぶRPAによる業務改善
- ・R5.5.26 事務スタッフが始める！自動化・デジタル化Webセミナー
- ・R5.6.30 Power Automate Desktop 入門セミナー



5

2 (4) RPA推進プロジェクトチームの活動概要

▶チームでの主な取組事例

【令和4年度】

- ・決議書作成に係るRPAの活用
- ・設備保全のDX推進に係るRPAの活用
- ・メール送信に係るRPAの活用
- ・データ処理に係るRPAの活用
- ・研修会未受講者リスト作成に係るRPAの活用

【令和3年度】

- ・休暇取得状況のお知らせ自動送信
- ・Formsを用いた電話やメールを減らす手法
- ・Excelを使用した請求書の自動作成および新規フォルダ・ファイルの保存
- ・診療科への統計データ自動送信



6

2 (5) RPA推進プロジェクトチームの今後の展望と成果

(5) 今後の展望と成果

個人としての能力向上が期待される！

< 成果 >

- ◆本チームでの活動により若手職員のITスキル向上
- ◆若手職員の通常業務に対する意識改革



< 展望 >



《STEP2》

- 報告会を実施し、RPAの成果等を病院事務部全体で情報共有を図る。

《STEP1》

- RPA化できる案件を洗い出し、可能な範囲でRPA化を進めノウハウを蓄積する。

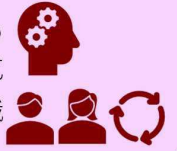
《STEP3》

- RPAの成果を病院事務部内で共有し横展開を進めていく。働き方改革等を推進するため、全学でのDX推進との連動も視野に病院全体での業務効率化を図る。

これらの成果の大学全体への伝播により組織として更なる波及効果が期待される！

< 成果 >

- ◆本チームでの活動により若手職員の業務効率化への高いマインドの育成
- ◆人事異動により業務効率化への意識の高い若手職員の大学内での循環



【R3年度】(3~5年間)

【STEP3以降】

7

3 令和5年度 熊本大学業務改善表彰

◆令和5年度 熊本大学業務改善表彰式(R5.11.24)



【役員及び受賞者全体撮影】



【業務改善表彰式会場】

< 表彰事案 >

★グランプリ★

件名：RPA推進プロジェクトチームにおける業務効率化への取り組み

表彰者：勇崎 剛、速瀬 あずさ、山野 育実、福田 佳代、宮崎 名央子、東 滉一郎、繁永 昌憲、田上 将太郎、田尻 瞳、宮林 洋一

《計10名》

その他、準グランプリ(1組)、入賞(1組)、特別賞(3組)が受賞

【参考】

国立大学法人熊本大学業務改善表彰要項 一抄一

第4条 業務改善表彰は、連続する二事業年度又はそのいずれかの事業年度において、特に顕著な功績又は模範として推奨するにふさわしい業務改善努力があった職員又はグループに対して行う。

8

教育現場における DX推進取組み

～ 保護者等Web ～



R6.1.10 定例学長記者懇談会

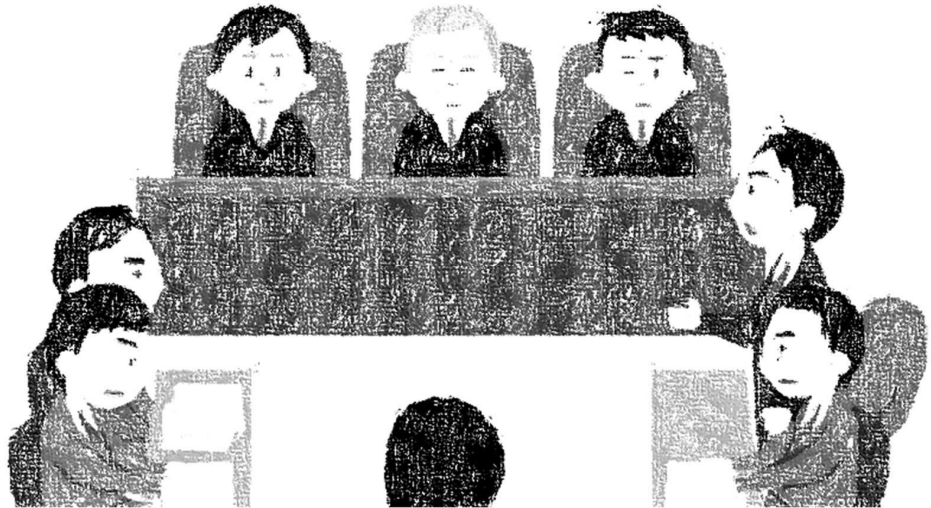
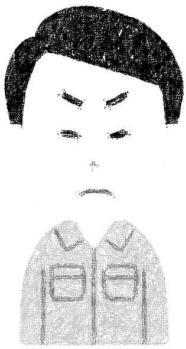
熊本大学

なぜ

DX 推進

を決意したのか

なんで現場に**無駄な時間**が流れるんだ!!



成績証明書の送付

郵送費

発送作業

タイムラグ

セキュリティ

5学部 6,300通／年間実績

問題点

1

問題点

2

問題点

3

問題点

4

保護者等Webの効果

郵送費

発送作業

タイムラグ

セキュリティ

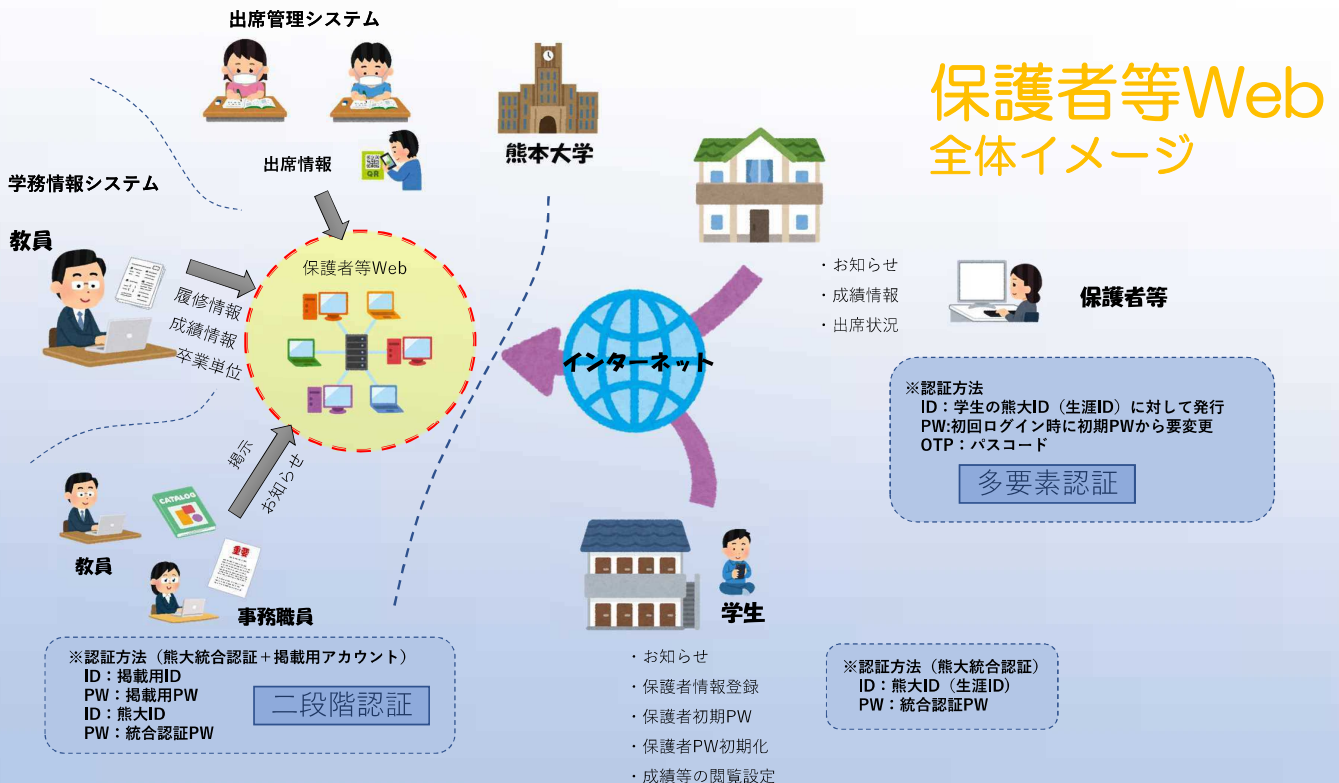
7学部 7,000通/年間効果

経費削減
400万円

業務効率
350時間

保護者支援
Infinity

解消
priceless



利用拡大

保護者向けアンケート

授業料収納状況表示

学修成果状況表示

合理的配慮支援

出席率低下時の連絡

保護者等Web
今後の
活用可能性

導入検討中

全国の保護者Web状況

リアルタイム

出席状況

多要素認証

Web化

保護者の成績通知

国内大学初

国立大学・・・九州、金沢、埼玉 3校
私立大学・・・1割未満

2013年日本学生支援機構調査
86.7%（国立80.0%、公立62.3%、私立91.0%）
※ 出席状況悪化連絡・・・72.5%

Kumamoto University



R6.1.10[水]